

『卑弥呼の墳墓を発見』

— 邪馬台国は半島に —

アマゾン電子著書 1, 055円

茅 出彦

10年前に半島の山中で百人近い殉死者を内蔵した20数mの円墳の内部資料を見た。これは卑弥呼の墓だと閃いた。これを追及して得た事実は倭国は金官加羅国（天照神が開いた）のことだった。列島は空き地の広がるフロンティアであった。海を渡り日本に行く倭人（米を作りの）が激増していた。

出雲ではスサノオ一家が国作りをしていたが天照系がそれを自分たちの管理下に置こうとした。国譲りでスサノオの故郷の高霊に追い返された出雲の人たちは職・住・食料がなく困窮してしまった。これを鉄の製造で救済し豊かな国に仕上げたのが卑弥呼であった。

邪馬台国が大伽耶国に成長して豊かな大軍事国家「倭国」に発展した。日本へ鉄を大量に送り込んで繁栄の大古墳時代を迎えた。

距離単位一步は23cmのことで現代日本人の歩く距離の常識150cmでないことを証明しています。

日本の揺籃期は半島先端部にあった伽耶国であり九州でも大和でもありません。

